

かつて通級生徒のアンケートを取っていた時の記録です。チェックシートから抜き出した生徒の好む物と課題です。

支援を必要とする生徒達が好きなものです。給食好きですね。教科では自由度の高い美術が好きようです。学習形態ではICT活用学習が好きようです。この辺は通常の生徒と大きく変わらないです。

では支援が必要な生徒が、自分で苦手だ、課題があると感じている学習形態はどれでしょうか？生徒の状態を想定してみましょう。

特に ASD、自閉、アスペルガーなど人との意思疎通が難しく、投薬している生徒達がいる、という前提だと考えやすいです。

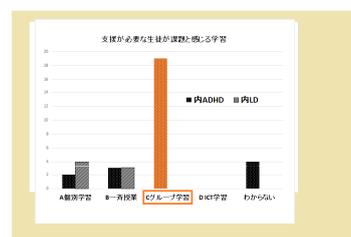
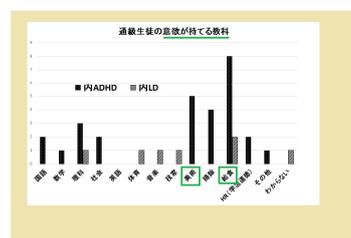
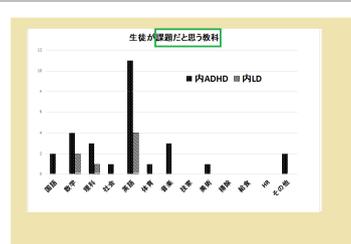
グループ学習やペア学習に課題がある生徒が多いです。特にADHDで申請している情緒に支援が必要な生徒が多いです。

人とうまく話せない、交流できないと悩み、薬を飲んでいる生徒達です。

人と話し合え、コミュニケーションをとれ、という活動は苦しいと予測されます。

自閉、ASD、場面緘黙など人とうまく話せない生徒が訓練をすれば人とうまく話せるかと言うと難しいです。

かつて自閉症は教育で治る、と教育で直そうとして失敗した、教育界の経緯もあると思います。通院投薬をしている生徒にとって、グループ学習は苦痛のようです。



そして教科の中ではコミュニケーションをとるために会話を行っている英語が苦しくなっています。

これは全体の4%程度の支援が必要な生徒の結果です。協働学習は必要でしょうし、英語のコミュニケーションは国際化で求められるものです。ですが、学級に数名、コミュニケーションを苦手にする、自閉症や場面緘黙のような生徒もいるのだという事を知っておく必要があるでしょう。

このグラフは文科省で出している最近の不登校生徒増加のグラフです。

ここ数年、学校では協働学習や英語のコミュニケーションを進めてします。不登校生徒の増加と全く無関係と言う事も難しいかもしれません。

END



自閉的傾向・場面緘黙

